

1. 管内の生態 概ね平年より3日程度早い予想です。
3月に入ってから平年より気温が高めに経過したことから、消雪は進んでいる状況です。りんごの生態は概ね平年より3日程度早い予想です。
気象庁発表の1か月予報では、今後も気温の高い日が多いと予想されていることから、生態の進みが加速する可能性がありますので、SSの点検整備、通路等の確保など、いつでも薬剤散布ができるよう準備をしておきましょう。

ふじの生態(4月4日現在) ()は予想です。

観測地点	発芽日	展葉日	展葉1週間後
平場 薬師堂・門外 森山・清水森	(4/6)	(4/12)	(4/19~)
中間 狼森・原ヶ平・松木平 三ツ目内・苦木・長峰	(4/9)	(4/16)	(4/23~)
山手 一野渡・大和沢・駒木 古懸・高野新田	(4/13)	(4/20)	(4/27~)
平年 JAつがる弘前 管内	4/9	4/17	-



展葉1週間頃の散布適期（葉が4~5枚展葉したとき）

2. 薬剤散布について 園地の生態を確認し、散布を行ないましょう！
・展葉1週間後の薬剤散布は、早いところで4月19日頃からとなりそうです。
・園地の条件により生態のばらつきがあることから、園地を確認し散布タイミングを逃さないようにしましょう（上記写真を参照）
・また、降雨前散布、散布量を守ることはもちろんですが、前回から10日以内に散布するようにしましょう。

平場(生態の早いところ) 中間 山手
展葉1週間後頃 4月19日頃~ 展葉1週間後頃 4月23日頃~ 展葉1週間後頃 4月27日頃~

散布時期	対象病害虫	基準薬剤	倍数	1000L 調合量	注意点
第1回目 展葉1週間後	モニリア病、黒星病 腐らん病 リンゴハダニ クワコナカイガラムシ アブラムシ類 キンモンホソガ ギンモンハモグリガ	精製マシン油(乳) ベフラン(液)	200倍 1,000倍	5L 1,000ml(2本)	発芽前に精製マシン油50倍散布を行った方は、展葉1週間後頃の精製マシン油の散布は必要ありませんが展着剤は必要となります。 クワコナカイガラムシの発生が多い園地では、アプロード(F)1,000倍も加用する。
第2回目 開花直前	モニリア病、黒星病 うどんこ病、腐らん病 ミダレカクモンハマキ	カナメ(F) アタブロン(SC)	4,000倍 4,000倍	250ml(1本) 250ml(1本)	基準散布から3日以上経過し、降雨が続きそうな場合は、チオノック(F)(年間使用回数5回まで)等で特別散布を実施しましょう。
第3回目 落花直後	黒星病、腐らん病 うどんこ病、黒点病 ミダレカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ リンゴハダニ	ミギワ(F) チオノック(F) アタブロン(SC)	4,000倍 500倍 4,000倍	250ml(2本) 2L(1本) 250ml(1本)	

3. 防霜対策

生育ステージ	発芽直前	発芽期	展葉初期	花蕾露出期	花蕾着色期	開花始	満開期	落花期
安全限界温度	-4.6	-2.1	-2.1	-2.1	-2.0	-1.5	-1.5	-1.7

・燃焼法
(1) 午後7時の気温が6以下、晴天無風のときに降霜の危険があるため、燃焼資材着火時点温度は、危険温度の1高い時点で着火する。
(2) 著しい低温時は、防霜ファンと燃焼資材を併用する。

SS散布資材

品目	グリーンステム	アイスバリア	霜ガード	グッドパートナー
規格	500g	1,1kg(1L)	10kg	1L
使用量	1,000倍 10a/300L	333倍 10a/300L	100倍 10a/300L	1,000倍
特徴	農薬混用可	農薬混用可	マシン油と混用不可	霜ガード用固着剤

燃焼資材一覧

資材名	使い方	10a使用量
霜カット	おが屑:灯油=2:1(1個2kg)	50個
防霜ロック	石綿+灯油	20個
A重油	1缶1kg+少量のガソリン	30缶
防霜ファン	始動温度を2に設定する。	-

降霜注意日前(2~3日前)に散布しましょう